

じゅくこう

春季彼岸会 厳修

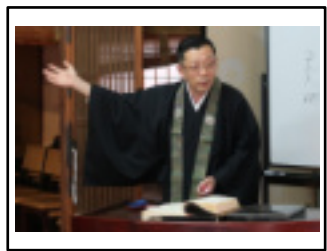
三月二十日(祝)お彼岸のお中日に当山の「春季彼岸会」を厳修させて頂きました。嵐のような風と冷たい雨が降る中、ご参拝いただいた方々には厚く御礼を申し上げます。

ご講師には四條畷市から加藤真悟先生にお越しいただきました。今回は令和二年の秋季彼岸会でしたので四年ぶりのご縁となりました。

「讚題は正信偈より、
「往還回向由他方、正定之
因唯信心、感染凡夫信心発
証知生死即涅槃、必至無量
光明土、諸有衆生皆普化」
「往還の回向は他方に由る。
正定の因は唯、信心なり。」

感染の凡夫、信心発すれば、生死即涅槃と証知せしむ。必ず無量光明土に至りて、諸有の衆生、皆、普く化す。といっただかれ、さらには仏説阿弥陀経の「諸上善人、俱会一处」「諸上善人とともに一处に会する」というお言葉を全体のテーマに置きながら、往生浄土の世界をゆつくりとお取り次ぎいただきました。

前半はご縁のあるご門徒さんとのお話で、三代にわたる女性(お婆ちゃん、お母さん、娘さん)とのお話。歳を重ねていく中で似ていく境遇があり、そうなるって初めて分かる親の思いとともに、お浄土に生まれていくことを、分からないけれども「そのまま聞いておく」と味わっておられたこと。また後半はご自身の経験で、二年前に亡くされた親友との別れの中で交わされたやり取りで、浄土真宗の「往生浄土」という教えが私たちにとってどれだけ大切で、亡くなっていく者、残される者の支えとなっていくのか、ということをお話し、染み入るお話しでお伝えいただきました。最期に「待っててくれるか」「分かった。待ってるわ」と約束ができた。「じゃあ、またな」と別れていくことができたそのお話は、正にお念仏に生かされた姿であったと味わいます。



QRコードを読み取ってご覧ください

さすがにそれは叶いません。収録してYouTube「浄覚寺チャンネル」に載せておりますので、ぜひともお聴聞していただきたいと思えます。

第60号
(通算400号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

- ・4月17日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆ヨガマットの貸し出しもあります。お友だちを誘い合って、ご参加ください。

極楽は

十万億土と説くなれど

近道すれば

南無のひと声

《蓮如上人》



御文章に聞く(第53回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

紙)を味わっていききたいと思えます。今月からは新しく「在家尼女房章」を読んでいきます。短いお手紙ではあ

在家尼女房章(五帖第三通)
それ、在家の尼女房たらん身は。なにのようにもなく、一心一向に阿弥陀仏をふかしたのみまいらせて。後生たすけたまえと申さんひとをば、みなみな御たすけあるべしとおもいとりて。さらに、疑いのこころゆめゆめあるべからず、これすなわち。阿弥如来の御ちかいの。他力本願と申すなり、このうえには。な。お。後生。の。た。す。か。ら。ん。こ。と。の。う。れ。し。さ。あ。り。が。た。さ。を。お。も。わ。ば、。た。だ。南。無。阿。弥。陀。仏。南。無。阿。弥。陀。仏。と。と。な。う。べ。き。も。の。な。り、
あなかしこ あなかしこ

りますが、その中に当時の時代背景や、阿弥陀さまの他力の教えを凝縮してお示しください。今月は大意だけになってしましますが、お伝えさせていただきます。
在家の女性は自力の心を捨て、何も思い煩うことなく、一心に阿弥陀仏の本願を深く信じさせていた。ご本願の仰せのままに後生をおたすけただくと味わう人は、すべておたすけただくと思いとつて、決して疑うところがあつてはなりません。このように信心の一つでおたすけをいただく教えを、阿弥陀如来の他力本願の教えと申すのです。このように本願を味わわせていただいた上からは、わけても後生をたすけていただくことのうれしさ、ありがたいさを思い、つとめて南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と、念仏を申すべきであります。

仏教語辞典



往生際が悪い
往生際は人が亡くなる直前のことをいう。今ではオセロなど、勝負事で負けが目に見えているのになかなか諦めないようなときに使う言葉に変わっていった。本人の諦めの悪さに、周りも困り果てたりする。

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。三月から四月にかけては卒業と入学のシーズンです。今年是我が子の当たり年でもあります。が、役目から幼稚園や小学校、中学校の卒業式や入学式に出席することがあります。その中の一つに保護者からの謝辞で心に響く言葉がありました。「これから新しい道に進みますが、良いことばかりではありません。けれどそれも必要な経験です。辛いことや悲しいことを知っているから人に優しくなれるのです。雨が降るから虹が出るのです。」とても前向きになれる、支えになってくれる言葉でした。どんな私でも百点満点。阿弥陀さまそのままの私を認めてくださっております。(釋法道)

行事案内

日時・四月二十日(土) 十四時・十九時
二十一日(日) 十四時のみ
行事・報恩講法要
場所・長原浄覚寺
法話・中西昌弘先生(大阪)
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)
浄土真宗で一番大切な法要です。必ずお参りさせていただきますよう。
5月
五月十一日(土) 十二時より
顕証寺 河内蓮如忌法要 参拝